観峰館 令和 8(2026)年度 春季企画展　開催概要（プレスリリース）

（公財）日本習字教育財団　観峰館

１、展覧会名

春季企画展「人物と書　― 翰墨の縁をたどる ―」

２、内　容

観峰館が収蔵する書法資料は、大部分が中国近代書人の作品です。彼ら書人たちは、往々にして官僚と学者という二つの立場を兼ね備えていました。そのため、同時代を生きた彼らの人間関係は、政治や学問、さらには思想や文化などを介して連鎖的に広がり、その影響は日本にまで及びました。本展では、人物とその関係やエピソードに注目して書作品を紹介することで、多様なコネクション＝「翰墨の縁」をたどってゆきます。

3、主催

公益財団法人日本習字教育財団　観峰館

〒５２９－１４２１　滋賀県東近江市五個荘竜田町１３６

TEL　０７４８－４８－４１４１　FAX　０７４８－４８－５４７５

春季企画展
QR コード

４、会場

観峰館　新館特別展示室

５、会期

2026 年 3 月 17 日（火）～6 月 7 日（日）　開館日数：59 日間

9 時 30 分～16 時 00 分（入館は 15 時 30 分まで）

休館日：月曜日（5 月 4 日は開館）※4 月 18 日（土）は臨時休館

開館時間：9 時 30 分～16 時 00 分（入館は 15 時 30 分まで）

６、入館料（常設展示共通）

一般　1,000 円（800 円）　高校生・学生 800 円（500 円）　中学生以下無料

※（　）は割引価格。対象はＨＰ内ご利用案内「割引について」を参照。

※5/5（こどもの日）は入館無料

７、関連イベント

●土曜講座

１「中国近現代史にみる翰墨の縁」（仮）

日　時：4 月 25 日（土）13 時 30 分～14 時 30 分

担　当：当館学芸員　瀬川敬也

定　員：20 名（要予約）

２「日中における翰墨の縁」（仮）

日　時：5 月 30 日（土）13 時 30 分～14 時 30 分

担　当：当館学芸員　瀬川敬也

定　員：20 名（要予約）

●アンティークオルゴール鑑賞会

日　時：5 月 5 日（火・祝　入館無料の日）14 時 30 分～15 時 30 分

担　当：当館学芸員　古橋慶三

定　員：30 名（要予約）

会　場：西洋アンティーク室

9、おもな出品予定作品

曾国藩：清朝の官僚。太平天国の乱を鎮圧し、西洋の近代技術を導入する洋務運動を推進した。

李鴻章：清朝の官僚。曾国藩の後継者で、同じく洋務運動を推進した。日清戦争時の清朝側代表者。

康有為：清朝の官僚。近代化を推進したが西太后の弾圧によって日本へ亡命した。碑学派の書論家でもある。

王懿栄：清末の金石学者。甲骨文字を発見し、殷代のものと確定したことで知られる。

羅振玉：清末民国初の考古学者。甲骨文字を研究しその出土地を特定した。のちに満州国の参議も務めた。

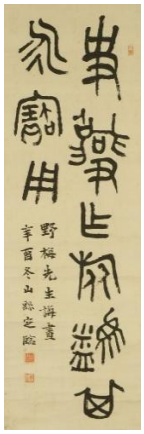
章炳麟：清末民国初の学者・思想家・革命家。辛亥革命を思想面で支えた。上海で芥川龍之介と対談している。

蔡元培：清末民国初の教育家。北京大学学長を務めて学風を確立し、新文化運動や五・四運動の礎を築いた。

楊守敬：清末の学者・蔵書家。清国公使の随員として来日した際、大量の碑版法帖を日本に伝え、書道界に大きな影響を与えた。

日下部鳴鶴：日本の書家。楊守敬のもとで碑学を研究し、六朝書風を牽引した。呉昌碩とも交流があった。

巖谷一六：日本の書家。楊守敬から六朝書法を学び独自の書風を確立した。彼の揮毫した石碑は全国に数多く現存する。



山本竟山：日本の書家。日下部鳴鶴に師事し、楊守敬を慕って清国に渡り書法を学んだ。呉昌碩らとも交流があった。

呉昌碩：清末民国初の書家・篆刻家・画家。詩・書・画・篆刻にすぐれ「四絶」と称された。日本人とも多く交流した。

以上